CORE Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk

# グレード制度をとり入れたピアノ指導の一考察

丸山京子・吉用愛子・仲野悦子・高木靖弘

# A Study of Piano instruction take in the grade system

Kyoko Maruyama・Aiko Yoshimochi・Etsuko Nakano・Yasuhiro Takagi

**Summary**

Educational activities using the piano are performed in the kindergarten and the nursery. Therefore, it is necessary for preschool educators to improve their piano skills. In this study, we investigated the result of the piano grade system for the past five years in order to enrich future lessons.

Consequently, improvement in a student's piano capability was found. Moreover, piano instruction in which etudes are carefully selected should be a requirement from this time on.

Received Oct. 31, 2002

Key words: grade system, piano practical skill, piano instruction

## Ⅰ　はじめに

幼稚園や保育園での子どもたちの一日の生活は、歌に始まって歌で終わるというように、幼児教育の現場で音楽は大変重要な位置をしめている。したがって、現場からの要請として、ピアノ技術の向上が極めて上位に位置づけられていることも頷ける結果である。我々が養成している幼稚園教諭、保育士の音楽、ことにピアノ演奏の能力が高度にもとめられるのは当然のことと言える。

従来、国家試験として行なわれる保母資格試験は、ピアノ実技試験の課題がバイエル教則本の80番以降の曲であった。そのため本学のピアノ実技指導では、２年間でバイエル教則本修了を最低到達目標としていた。

そのような中で、音楽研究室スタッフは、平成２年度より、本学独自のグレード制を取り入れることにした。すなわち、本学に入学して初めてピアノに触れる学生でもバイエル教則本を２年前期までに修了することを最低目標とした。このことは、初心者は初心者なりに、経験者はさらに上級を目指して向上を計るべく、学生一人ひとりに到達目標を持たせるため

のものである。

そのグレード制は、バイエル教則本、ツェルニー教則本の100番、リトルピアニスト、そして、さらにその上にはツェルニー30番練習曲、40番練習曲を10段階に分けるものである。これについては後ほど詳述することとする。

この結果、学生一人ひとりが各自の目標を明確に持ち、ピアノ実技指導の効果が明らかに向上したことが認められた。しかし、それは指導スタッフがおおよその感じとして持っているに過ぎず、はっきりと数字として確信しているのではない。そこで本稿では、過去5年間に遡って各期の試験結果をもとに、その内容を分析し、ピアノ指導の現状をしっかりと把握し、また、幼児歌曲課題、自由曲課題の結果ともあわせて、今後のピアノ指導のあり方を認識し、検討することを目的とした。

[カリキュラムの変遷とピアノ実技指導の現状]

平成元年の幼稚園教育要領及び平成2年の保育指針の改訂に伴って、音楽にかかわる科目も大幅に変わった。それまでの教科専門科目の「音楽Ⅰ」(2単位)、「音楽Ⅱ」(2単位)、教職専門科目の保育内容「音楽リズム1」(1単位)、「音楽リズム2」(1単位) という科目構成から、教科専門科目に「基礎音楽」(2単位)、「幼児音楽」(2単位)、教職専門科目に「音楽表現」(1単位)、「総合表現」(2単位) という構成に変わった。音楽にかかわる全体の科目数は変わっていないが、単位数は1単位増えた。そして、長らく続いた音楽リズムの名称がなくなった。

さらに、平成10年の幼稚園教育要領及び平成11年の保育指針の見直し改訂によって教科専門科目「基礎音楽」(2単位)、教職専門科目保育内容「音楽表現Ⅰ」(1単位)、「音楽表現Ⅱ」(1単位)、「総合表現」(2単位) とカリキュラムが変わった。すなわち、「幼児音楽」がなくなり、単位数も1単位減ることとなった。

そして、平成14年度のさらなる教育課程の改訂によって実習単位が増加し、それに伴い実習時期が早くなりピアノ実技指導の上でも、検討が必要となった。こうしたカリキュラムの変更によって、その都度、授業内容や授業形態も変わることとなった。

授業形態でいえば、平成2年度以前の「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」の場合は、隔週1コマずつの講義とピアノ実技を展開していた。そのために、学生にとっては2週間に一度のピアノレッスンで年間を通じて15回前後しかなく、ピアノ初心者にとっては大変厳しい状況であった。平成2年度以降平成8年度までは従来の授業形態を継承した。しかし、平成9年度以降、「基礎音楽」「幼児音楽」では、それまでの反省に立って学生一人ひとりに毎週ピアノレッスンを受けさせるため、1コマ90分の授業を半分に分け、45分で講義とピアノ実技を同時に展開することにした。このことは、結果として学生により充実した練習を動機づけることになり、指導効果がより上がることとなった。また、その際、学生にピアノ実技についてそれぞれのレ

ベルに応じた到達目標を示すため、本学独自のグレード制を新たに設けることとした。すなわち、初心者でもグレード４（バイエル教則本修了）を最低到達目標とし、ピアノ経験者はそれ以上のグレードを目指すこととした。

また、同時に幼児歌曲課題を設けた。幼稚園、保育所で日常歌われる歌を２年間で各自のレベルに応じて弾き歌いできるようにするため、それぞれのレッスン時間の中で各担当教員が指導することとした。

平成11年度以降は、教科に関する科目として「基礎音楽」と教職に関する科目として「音楽表現Ⅰ」「音楽表現Ⅱ」がある。授業形態は全く変わらず、２年次後期に開講される「音楽表現Ⅱ」が選択科目となり２年次前期までにグレード４修得を必修とした。このことは、学生にとって一層厳しい条件となった。また、幼児歌曲課題についても１年間で10曲、２年間で計20曲となった。しかし、その認定は各担当教員に任されどうしても甘くなりがちであったが、平成13年度からは毎月１回、認定日を設けて別の教員がチェックすることにした。

平成14年度、ピアノ指導の現況は、これまでの状況を踏まえながら、教育実習が１年次11月から始まるのにあわせて、学生にとってはより厳しいものとなっている。幼児教育の現場でより実践的なピアノ実技修得者が求められているので、保育者養成校に課せられた課題はますます大きくなった。

## Ⅱ　方　　法

・本学第一部幼児教育学科において平成９年度入学生から平成13年度入学生について過去５年間に在籍した学生を対象にし、実技試験結果について検討する。（学生数は以下の表を参照）

グレード認定試験対象学生数（人）

| 年度 | 学生総数 | 女子 | 男子 |
|---|---|---|---|
| 平成 9年 | 126 | 126 | |
| 平成10年 | 136 | 133 | 3 |
| 平成11年 | 136 | 123 | 13 |
| 平成12年 | 139 | 130 | 9 |
| 平成13年 | 134 | 126 | 8 |

・認定試験結果について、各年度に入学時から卒業時までの学生個人の認定試験結果を調査し、各年度のグレードごとの比率を検討する。

・学生のピアノ技術を理解するためグレードレベルをグループ化する（表１参照）。

・初級者、中級者、上級者については１年次前期に限り、バイエル教則本の修了確認をする為、グレード４と現在のグレード受験を認めている。１年次後期及び２年次前期ではその

時点で学生が持っているグレードとそのグレードのひとつ上のグレード受験が認められている（以下複数受験とする）。この結果をあわせて検討する。

・初心者の中で男女別の進度状況の差異を検討する。

## Ⅲ　結果と考察

先にも述べたように音楽研究室では学生のピアノ実技能力を高めるために、「基礎音楽」（１年次開講）および「音楽表現Ⅰ、Ⅱ」（２年次開講）の授業において授業時間（90分）を半分に分けて同時展開している（ピアノ実技45分、音楽理論45分）。そして、定期試験時にピアノのグレード認定を行い、上記科目の単位認定の一部としている。グレード認定の回数は１年次前・後期各１回、２年次前期１回の合計３回である。グレード認定試験の曲目は主にバイエル、ツェルニーを用い、１年次前・後期および２年次前期には課題曲を指定している。また、平成12年度からは２年次後期の自由曲の選択としてブルクミュラー教則本（25番、18番）を指定している。

今回、過去５年間（平成９年から13年）の認定試験結果をもとに学生のピアノ実技進度状況を調査し、検討した。

### (1)　ピアノグレード（G）認定の仕組み　（表１）

グレード認定は初心者（Ｇ０・Ｇ１・Ｇ２）、バイエル経験者（Ｇ３・Ｇ４）、初級者（Ｇ５・Ｇ６）、中級者（Ｇ７・Ｇ８）、上級者（Ｇ９・Ｇ10）に分類して行っている。グレード認定試験では複数受験制度を設け、学生のレベル･アップを目指している。それはＧ４の認定（バイエル修了者）を受けた学生はより上級のグレード認定を受けることができる（１年前期試験）というものである。また、１年次後期試験および２年次前期試験時のグレード認定試験は１年次前期のシステムとは異なっている。それは学生の持つグレードのワンランク上のグレードに限って認定試験が受けられる。グレード認定の基準および課題曲は表１に従っている。

グレード制は平成２年度より始めたピアノ実技能力向上のために設けた本学独自のものである。これは学生一人ひとりのピアノ実力を把握し、彼らの実力をさらに伸ばすために設けた制度である。以下にそのグレードを示す。

### (2)　グレード認定試験－その１－

表２は平成12年度入学生と平成13年度入学生の学生のグレード認定試験結果である。

表２によれば、12・13年度入学生共に１年次前期時点で初心者が35％（12年）、38％（13年）であったのが１年後の２年前期ではそれぞれ18％（12年）、０％（13年）と大幅に減少している。これとは逆に初級者、中級者、上級者の比率が増加している。たとえば、初級者レ

表１　グレード認定基準表

| レベル | グレード | 教材 | 範囲(No) | 課題曲 | 基準内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 初心者 | 0 | バイエル | ～45 | 担当者に一任 | 入学後初めてピアノに触れた者あるいは幼年時に習っていたが、入学時まで中断している者 |
| | 1 | 〃 | 46～65 | 46, 48, 52, 55, 60 | |
| | 2 | 〃 | 66～78 | 66, 73, 74, 77, 78 | |
| バイエル経験者 | 3 | 〃 | 79～92 | 80, 82, 88, 89, 91 | 入学後もレッスンを継続し、バイエル教則本後半あるいはバイエル修了者 |
| | 4 | 〃 | 93～104 | 93,98,100,102,104 | |
| 初級者 | 5 | バイエル、C30番以外 | 105 | 他のエチュードに関しては一任 | バイエル教則本修了者、上級教則本のレッスン受講者 |
| | 6 | C30番 | 1～10 | 1, 3, 5, 7 | |
| 中級者 | 7 | 〃 | 11～20 | 13, 15, 17, 19 | ツェルニー30番教則本の受講者 |
| | 8 | 〃 | 21～30 | 21, 23, 25, 27 | |
| 上級者 | 9 | C40番 | 1～20 | 複数指定曲（担当者に一任） | ツェルニー40番教則本の受講者 |
| | 10 | 〃 | 21～40 | 複数指定曲（担当者に一任） | |

表２　グレード認定試験結果比率（平成12・13年度）

（%）

| | | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 |
|---|---|---|---|---|
| 一二年度入学生 | 初心者 | 35 | 10 | 18 |
| | バイエル経験者 | 46 | 36 | 36 |
| | 初級者 | 15 | 40 | 31 |
| | 中級者 | 1 | 8 | 13 |
| | 上級者 | 3 | 5 | 2 |
| | 不合格者 | 3 | 1 | 9 |
| | 学生総数（人） | 139 | 139 | 133 |
| 一三年度入学生 | 初心者 | 38 | 17 | 0 |
| | バイエル経験者 | 39 | 36 | 38 |
| | 初級者 | 19 | 32 | 42 |
| | 中級者 | 2 | 13 | 17 |
| | 上級者 | 2 | 2 | 3 |
| | 不合格者 | 10 | 10 | 29 |
| | 学生総数（人） | 134 | 134 | 130 |

ベルを見ると12年度入学生では１年前期の初級者が15％であったのに、２年前期になると31％と倍増している。13年度入学生では１年次前期の初級者が19％であったのに対して、２年後期になると42％に倍増している。

しかし、バイエル経験者レベルを見ると、上記とは若干異なった状況となっている。12年度入学生のバイエル経験者は１年次前期が46％、１年次後期が36％、２年次前期が36％である。13年度入学生のそれは１年次前期が39％、１年次後期が36％、２年次前期が38％である。すなわち、ある程度ピアノの実力が身に付いた学生があと一歩のところで伸び悩んでいる事がわかる。とくに、１年次後期から２年次前期にかけてこの傾向が強くなっている。これは、この間に冬期休暇、春期休暇、実習などがありピアノの練習時間に対しての意気込みが欠けているものと思われる。そして、不合格者については休暇期間中にピアノ練習を義務付け、認定試験に再度挑戦する機会を与えている。

平成14年度入学生からはそれまでの学生より実習の回数、期間とも増加するため、この傾向がより強く現れることが予測される。そこで今後、夏休み、冬休み、春休みなど休暇中の自己練習の姿勢や指導者側のレッスン対応が問われる。

(3) グレード認定試験－その２－

表２ではピアノグレード認定の大まかな数値を最近の２年に限って示した。

以下では、複数受験制度を考慮に入れながら、少し掘り下げてグレード認定試験について考えてみたい。表３から表７までは平成９年度から平成13年度までに行った各年度１年次前期のピアノグレード認定試験結果である。先に述べたように、グレード４の実力があると認められた学生にはより上級のグレード認定試験が受験できる制度（複数受験）があり、その結果もあわせて示してある。そこで、平成９年度を例にして複数受験の欄の見方を説明してみよう。繰り返すが、複数受験を認めるのはグレード４以上である（１年前期グレード認定試験のみ)。表では、バイエル経験者欄に二つのグレードが記入してある数値（人数）が複数受験者である。すなわち、グレード４の実力がありグレード５に合格した人数が「Ｇ４・Ｇ５」の12名である。これらの学生はまた初級者欄のグレード５にも示してある。したがって、グレード４以上の実力がある学生はグレード４の合格者28名、グレード４・５の合格者12名、グレード４・６の合格者15名、グレード４・７の合格者１名、グレード４・８の合格者１名、グレード４・９の合格者２名を合計した59名（全学生数の46.8％）ということになる。同様に年度ごとにグレード４以上の実力がある学生数を見ると、平成10年度が57名（41.9％)、平成11年度が53名（39.0％)、平成12年度が57名（41.0％)、平成13年度が47名（35.7％）となる。平成９年度からの傾向を見ると、１年次前期時点でグレード４レベル以上の学生の比率は若干少なくなっている。これは後に述べるように、平成12年度から「幼児歌曲の弾き歌い」を義務付けた結果、学生個人のピアノ練習時間内でエチュード（教則本）と弾き歌いの両者に

時間が分散したと思われる。これに対して、学生には練習時間を増加しなければならないという状況の意識付けが望まれる。また、今後はこの意識付けを背景にした指導が必要とされる。

表3　ピアノグレード認定試験結果
（平成9年度　一部1年　前期）
学生総数　126名

| | | 合格 | 不合格 | 複数受験 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 合格 | 不合格 |
| 初心者 | G0 | | | | |
| | G1 | 12 | | | |
| | G2 | 33 | 1 | | |
| バイエル経験者 | G3 | 10 | | | |
| | G4 | 28 | 4 | | |
| | G4・G5 | | | 12 | 2 |
| | G4・G6 | | | 15 | 4 |
| | G4・G7 | | | 1 | |
| | G4・G8 | | | 1 | |
| | G4・G9 | | | 2 | 1 |
| | G4・G10 | | | | |
| 初級者 | G5 | 12 | | | |
| | G6 | 15 | | | |
| 中級者 | G7 | 1 | | | |
| | G8 | 1 | | | |
| 上級者 | G9 | 2 | | | |
| | G10 | | | | |

G4以上の学生数　59名（46.8%）

表4　ピアノグレード認定試験結果
（平成10年度　一部1年　前期）
学生総数　136名

| | | 合格 | 不合格 | 複数受験 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 合格 | 不合格 |
| 初心者 | G0 | | | | |
| | G1 | 20 | 1 | | |
| | G2 | 26 | 1 | | |
| バイエル経験者 | G3 | 21 | 2 | | |
| | G4 | 29 | 4 | | |
| | G4・G5 | | | 9 | |
| | G4・G6 | | | 17 | 4 |
| | G4・G7 | | | 1 | |
| | G4・G8 | | | | |
| | G4・G9 | | | 1 | |
| | G4・G10 | | | | |
| 初級者 | G5 | 9 | | | |
| | G6 | 17 | | | |
| 中級者 | G7 | 1 | | | |
| | G8 | | | | |
| 上級者 | G9 | 1 | | | |
| | G10 | | | | |

G4以上の学生数　57名（41.9%）

表5　ピアノグレード認定試験結果
（平成11年度　一部1年　前期）
学生総数　136名

| | | 合格 | 不合格 | 複数受験 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 合格 | 不合格 |
| 初心者 | G0 | | | | |
| | G1 | 24 | 3 | | |
| | G2 | 18 | 3 | | |
| バイエル経験者 | G3 | 22 | | | |
| | G4 | 28 | 5 | | |
| | G4・G5 | | | 12 | 1 |
| | G4・G6 | | | 11 | 3 |
| | G4・G7 | | | | 2 |
| | G4・G8 | | | 2 | |
| | G4・G9 | | | | 2 |
| | G4・G10 | | | | |
| 初級者 | G5 | 12 | | | |
| | G6 | 11 | | | |
| 中級者 | G7 | | | | |
| | G8 | 2 | | | |
| 上級者 | G9 | | | | |
| | G10 | | | | |

G4以上の学生数　53名（39.0%）

表6　ピアノグレード認定試験結果
（平成12年度　一部1年　前期）
学生総数　139名

| | | 合格 | 不合格 | 複数受験 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 合格 | 不合格 |
| 初心者 | G0 | 3 | | | |
| | G1 | 16 | 1 | | |
| | G2 | 28 | | | |
| バイエル経験者 | G3 | 23 | 1 | | |
| | G4 | 32 | 2 | | |
| | G4・G5 | | | 5 | 2 |
| | G4・G6 | | | 15 | 4 |
| | G4・G7 | | | | 1 |
| | G4・G8 | | | 1 | |
| | G4・G9 | | | 4 | 1 |
| | G4・G10 | | | | |
| 初級者 | G5 | 5 | | | |
| | G6 | 15 | | | |
| 中級者 | G7 | | | | |
| | G8 | 1 | | | |
| 上級者 | G9 | 4 | | | |
| | G10 | | | | |

G4以上の学生　57名（41.0%）

表７　ピアノグレード認定試験結果
（平成11年度　一部１年　前期）
学生総数　134名

| | | 合格 | 不合格 | 複数受験 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 合格 | 不合格 |
| 初心者 | G0 | | | | |
| | G1 | 20 | 5 | | |
| | G2 | 26 | 3 | | |
| バイエル経験者 | G3 | 24 | 1 | | |
| | G4 | 20 | 4 | | |
| | G4・G5 | | | 6 | |
| | G4・G6 | | | 17 | 4 |
| | G4・G7 | | | 2 | |
| | G4・G8 | | | | |
| | G4・G9 | | | 1 | |
| | G4・G10 | | | 1 | |
| 初級者 | G5 | 6 | | | |
| | G6 | 17 | | | |
| 中級者 | G7 | 2 | | | |
| | G8 | | | | |
| 上級者 | G9 | 1 | | | |
| | G10 | 1 | | | |

G4以上の学生数　　47名（35.7%）

ところで、入学後ほぼ１年間ピアノを練習した結果学生のグレード進度はどの程度上達したのであろうか。表８は入学年度ごとにグレードがどの程度上達したのかを示している。入学年次ごとに１年後のグレード進度を見ると、初心者学生は平成12年度入学生を除いていなくなっている。

表８　入学年度別グレード認定試験結果（合格者数）

（人）

| | | 平成9年度入学生 | | 平成10年度入学生 | | 平成11年度入学生 | | 平成12年度入学生 | | 平成13年度入学生 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 |
| 初心者 | G0 | − | − | − | − | − | − | 3 | − | − | − |
| | G1 | 12 | − | 20 | − | 24 | − | 16 | − | 20 | − |
| | G2 | 33 | − | 26 | − | 18 | − | 28 | 16 | 26 | − |
| バイエル経験者 | G3 | 10 | 4 | 21 | − | 22 | 9 | 23 | 20 | 24 | 9 |
| | G4 | 28 | 24 | 29 | 28 | 28 | 25 | 32 | 21 | 20 | 16 |
| 初級者 | G5 | 12 | 17 | 9 | 18 | 12 | 21 | 5 | 24 | 6 | 17 |
| | G6 | 15 | 28 | 17 | 22 | 11 | 18 | 15 | 10 | 17 | 21 |
| 中級者 | G7 | 1 | 21 | 1 | 13 | − | 15 | − | 13 | 2 | 5 |
| | G8 | 1 | 10 | − | 8 | 2 | 3 | 1 | 2 | − | 8 |
| 上級者 | G9 | 2 | 2 | 1 | 2 | − | 1 | 4 | − | 1 | 2 |
| | G10 | − | 4 | − | − | − | 2 | − | 2 | 1 | 1 |

（注）表内の数値は各年次とも前期グレード認定試験の合格者数である。

(4) 初心者のグレード進度

毎年ピアノ初心者は全体の40%前後の人数である（表３～７参照）。初心者が１年間でどれだけピアノ実技能力が身に付いているのかを、男女別のグラフ（男子Ａ～Ｆ、女子Ａ～Ｆ）にまとめてみた。学生は年間25回前後のピアノレッスンを受けている。入学時グレード０の学生12名のグレード進度を見ると（図１、２参照）、男女別に若干差があるものの入学時から６月までは急速に進度が上がっている。バイエル教則本の番号を見ると、No.54，No.55ぐらいである。そこから少し進度の伸びが停滞している。これはバイエル教則本に「ヘ音記号」が導入され始めたからと思われる。「ヘ音記号」を読むのに時間がかかる学生は、この時点から伸び悩みはじめる。また、前期試験（７月）が近い為、試験準備などで足踏み状態に入ると思われる。その後９月いっぱいまでは夏期休暇に入り、伸びが停滞する結果となる。また、10月から１月の試験までは個人差もあるが、どうにか80番前ぐらいまで修了している。

そこで、７月試験終了時から９月末までの夏期休暇の指導方法について検討する必要があると思われる。学生の意識付けとしても、10月はじめに課題テストをするなどの方法を用いて、夏期休暇中の課題を出すのもひとつの方法であろう。このような方法で指導すれば、初心者が１年間でバイエル修了レベルの力が備わると推測される。

図１　男子ピアノ初心者の進度

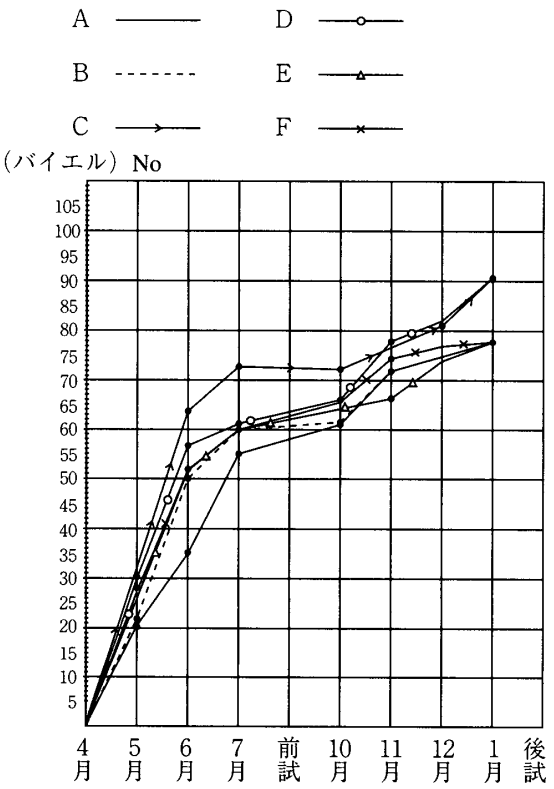
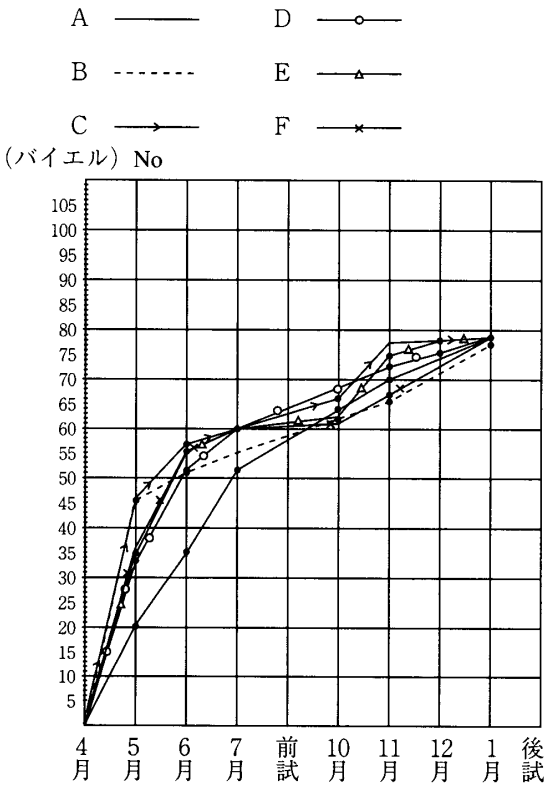



図２　女子ピアノ初心者の進度



(5) 自由曲の演奏

2年後期には2年間の総仕上げと言う意味でも自由曲に取り組み、学生の持つレベル内での曲の完成を目標にしている。平成11年度後期試験までは、学生の自由選択という形式で試験を行なってきた。しかし、あまりにも選択曲が広範囲になり、演奏時間やジャンルの統一性がなくなってしまった。自由曲の選択教材を決定するため、以下のことを調査、検討した。

平成9年度～11年度のグレード4から6（バイエル修了～ツェルニー30番）を修得している学生を調べてみた。すると、グレード4から6（バイエル修了～ツェルニー30番）の習得学生が全体の約半数を占めていることがわかった（表3～7参照）。これはレベル的にもブルグミュラー25番練習曲からの選択は可能であると思われる。また、平成11年度入学生の2年次における自由曲を見ると、ブルグミュラー25番の練習曲から41名、ブルグミュラー18番の練習曲から1名、ソナタアルバムから4名、ソナチネアルバムから17名の選択となっている（表9参照）。その結果、ブルグミュラー25番・18番の練習曲からの選択者は全体の38%を占めており、ソナタ・ソナチネアルバムからの選択者は全体の19%となっている。ブルグミュラー18番練習曲はブルグミュラー25番練習曲よりレベルが高い教則本であり、ソナタ・ソナチネアルバムのレベルはブルグミュラー18番練習曲のレベルに相当している。したがって、ソナタ・ソナチネアルバムからの選曲者はブルグミュラー18番練習曲の中から選択する事は可能であると思われる。

表9　平成12年度の自由曲選択人数（総計108人）　（人）

| No | ブルグミュラー25番練習曲 | |
|---|---|---|
| 1 | 素直な心 | 4 |
| 2 | アラベスク | 3 |
| 3 | 牧歌 | 3 |
| 5 | 無邪気 | 4 |
| 7 | 清い流れ | 7 |
| 12 | さようなら | 3 |
| 14 | スティリアの女 | 1 |
| 15 | バラード | 5 |
| 18 | 心配 | 1 |
| 21 | 天使の合唱 | 6 |
| 22 | 舟歌 | 2 |
| 25 | 貴婦人の乗馬 | 2 |
| 計 | | 41 |

| No | ブルグミュラー18番練習曲 | |
|---|---|---|
| 1 | 大雷雨 | 1 |
| 計 | | 1 |

| | |
|---|---|
| ソナタアルバム | 4 |
| ソナチネアルバム | 17 |
| 計 | 21 |

表10　ピアノ自由曲選択結果（12、13年度）

| No | ブルグミュラー25番練習曲 | 12年 | 13年 |
|---|---|---|---|
| 1 | すなおな心 | 4 | 9 |
| 2 | アラベスク | 6 | 8 |
| 3 | パストラル（牧歌） | 2 | 9 |
| 4 | 小さなつどい | 1 | 2 |
| 5 | 無邪気 | 4 | 5 |
| 6 | 進歩 | − | 1 |
| 7 | 清らかな小川 | 5 | 5 |
| 8 | 優しく美しく | 1 | − |
| 9 | 狩（かり） | 2 | 5 |
| 10 | やさしい花 | 1 | − |
| 11 | せきれい | − | − |
| 12 | 別れ | 7 | 9 |
| 13 | コンソレーション（なぐさめ） | − | − |
| 14 | シュタイアー舞曲（アルプス地方の踊り） | 4 | 2 |
| 15 | バラード | 8 | 13 |
| 16 | ちょっとした悲しみ | 1 | 2 |
| 17 | おしゃべりさん | − | 1 |
| 18 | 気がかり | 1 | 3 |
| 19 | アヴェ・マリア | 4 | 4 |
| 20 | タランテラ | 4 | 5 |
| 21 | 天使の学校 | 4 | 1 |
| 22 | バルカロール（舟歌） | 6 | − |
| 23 | 再開 | 5 | 3 |
| 24 | つばめ | 1 | − |
| 25 | 乗馬 | 12 | 5 |
| 計 | | 83 | 92 |

| No | ブルグミュラー18番練習曲 | 12年 | 13年 |
|---|---|---|---|
| 1 | ないしょ話 | 1 | − |
| 2 | 真珠 | − | 1 |
| 3 | 家路につく牧童 | 3 | 3 |
| 4 | ジプシー | − | 1 |
| 5 | 泉 | − | − |
| 6 | 陽気な少女 | − | − |
| 7 | 子もり歌 | − | − |
| 8 | アジタート | 1 | 1 |
| 9 | 朝の鐘 | 1 | 1 |
| 10 | すばやい動き | 1 | − |
| 11 | セレナード | − | − |
| 12 | 森での目覚め | 2 | 2 |
| 13 | 大雷雨 | 4 | 3 |
| 14 | ゴンドラの船頭歌 | 2 | 3 |
| 15 | 空気の精 | − | 1 |
| 16 | わかれ | − | 1 |
| 17 | マーチ | 2 | 1 |
| 18 | つむぎ歌 | − | 1 |
| 計 | | 17 | 20 |

以上の点から、平成12年度入学生より２年次後期試験は自由曲としてブルグミュラー25番・18番練習曲から選択することで、統一を図った。その結果、ブルグミュラー25番からの選択学生数は平成12年が83人、13年が92人である。ブルグミュラー18番を選択した学生数は平成12年が17人、13年が20人である。両年ともブルグミュラー25番18番の選択曲数の割合は変わりない。教材として指定した練習曲は生かされていることになると思われる（表10参照）。今後、自由曲の指定教材を学生個人のグレード習得レベルにあわせて決定する方法も考えられる。

(6) 幼児歌曲の弾き歌い

幼児歌曲の弾き歌いは「基礎音楽」「音楽表現Ⅰ、Ⅱ」の授業で導入されている。しかし、学生にとってはグレード認定のほうに意識が向けられ、弾き歌いとグレード認定試験の両立ができていなかった。そこで、平成13年度より学生への意識付けの一環でグレード認定試験の資格として、前・後期それぞれ５曲の「幼児歌曲弾き歌い」を義務付けた。それは、幼児歌曲の弾き歌いが卒業後保育現場で実際に幼児に接する時に多いからである。具体的には、保育者が歌を歌いながらピアノを弾くことができると、子どもとの距離が近くなりより良い音楽空間作りができるからである。また、子どもの音楽感性を豊かにする引きがねになることも考えられる。

表11　幼児歌曲弾き歌い合格者数

| 曲数 | 人数 | % |
|---|---|---|
| 0曲 | 3 | 2.2 |
| 1～5曲 | 5 | 3.7 |
| 6～10曲 | 71 | 53.0 |
| 11～15曲 | 40 | 29.9 |
| 16～20曲 | 9 | 6.7 |
| 21～25曲 | 3 | 2.2 |
| 26曲以上 | 3 | 2.2 |
| 計 | 134 | 100.0 |

表12　平成13年度入学生
前・後期グレード認定結果　(人)

| | | 前期 | 後期 |
|---|---|---|---|
| 初心者 | G0 | － | － |
| | G1 | 20 | － |
| | G2 | 26 | 16 |
| バイエル経験者 | G3 | 24 | 20 |
| | G4 | 20 | 21 |
| 初級者 | G5 | 6 | 23 |
| | G6 | 17 | 10 |
| 中級者 | G7 | 2 | 13 |
| | G8 | － | 2 |
| 上級者 | G9 | 1 | － |
| | G10 | 1 | 2 |

表11は平成13年度入学生が１年間で何曲弾き歌いができたのかを示している。これによれば合格した曲目数は６～10曲が71名（53.0%）、11～15曲が40名（29.9%）あり、両者を合計すると82.9%となる。この結果、約８割以上の学生が６曲～15曲の弾き歌いができていることとなる。しかも、26曲以上合格した学生が３名いる。

ここで、平成13年度入学生の前・後期グレード認定結果を見ると表12のようになっている。したがって、グレード４から７までの認定を受けた学生67名は６～15曲ほど幼児歌曲の弾き歌いができる力を備えている。これらの学生は、保育現場での幼児歌曲の弾き歌いについてある程度の柔軟性を発揮できると思われる。

## Ⅳ　おわりに

保育者としての資質向上がより一層望まれている昨今、我々保育者養成校は学生の保育知識・技能の体得や保育者としての姿勢・意欲などがより求められている。幼稚園及び保育所

長を対象とした調査からは養成校で学んで欲しい教育内容として、ピアノ奏法が上位に上げられている（注)。我々音楽を指導している教員として授業のあり方を今一度振り返り、考察し次の結果を得た。

・入学生のピアノ実技進度として初心者は総学生数の35％前後であり、この比率は５年間ほぼ同じ割合を維持している。この学生達は、１年間かけてグレード２（バイエル80番）まで到達できている。また、初心者の男女間の進度差は若干見られた。初心者に対しては授業期間中の補講や長期休暇中の補講によりグレード２まで到達できた。
・幼児歌曲においては１年間定期的にチェックすることで約８割以上の学生が６～15曲の弾き歌いができている。このような取り組みを試みた結果、学生たちの意欲や技術の向上が確認できた。
・１年前期授業終了から１年後期授業初め、１年後期授業終了から２年前期授業初めのピアノ進度が変化していない。このことは夏休みや春休みなど長期休暇中におけるピアノ練習への取り組み方が問われる。学生達は約２か月間ピアノ練習から遠ざかっている為か、ピアノ技術の上達はほとんど見られない。

保育者養成校（音楽研究室）では２年生前期までに基礎的技量の目標としてバイエル修了を目指している。本学学生はこの目標にほぼ全員到達している。そして、卒業までにいろいろな練習曲だけでなく、ブルグミュラー教則本や幼児歌曲の弾き歌いなどを取り入れ、ピアノをとおして豊かな表現ができるようにも指導している。教育課程の変更により１年生の11月に教育実習Ⅰ（幼稚園実習）が実施されている。したがって、今後のピアノ指導のあり方として、１年間でバイエル教則本修了を目指すと共に幼児歌曲の弾き歌いも取り入れながらより一層学生の意識を高めることが必要である。また、ピアノ実技の上達は休み期間中を利用することも指導者側としての検討課題である。

（注）日本保育学会第55回大会（研究発表）
「保育者養成課程の教育内容について（その１）－幼稚園長及び保育所長を対象とした調査から－」（新井美保子・林陽子・中村治人）において、養成校で学んできて欲しい科目を保育現場の園長を対象に調査した結果が報告されている。科目として、発達・教育心理学、保育の歴史、臨床心理学、ピアノの順に上げられ、声楽、身体表現、手遊び・弾き歌いなども上位にランクされている。